

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (1/8)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	教授	氏名	スズキ 杉本 星子
学歴	昭和52年 3月 南山大学文学部人類学科卒業 昭和57年 3月 南山大学大学院文学研究科(博士前期課程)文化人類学専攻修了 昭和59年10月 名古屋大学大学院文学研究科東洋史専攻研究生「平2.3月まで」 平成 2年 3月 インド・マドラス大学地理学科研究生「平3.2月まで」 平成 6年 4月 インド・デリー大学社会学科研究生「平7.3月まで」 平成 9年 3月 総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻(博士後期課程) 平成12年10月 オックスフォード大学セント・アントニーズ・カレッジ 客員研究員 (professor) 単位取得満期退学 「平13.3月まで」				
学位	昭和57年 3月 文学修士(南山大学) 平成10年 9月 文学博士(総研大乙第55号)				
専門分野	社会人類学				
専門資格	中学校社会科・高等学校地理教員資格、博物館学芸員資格				
所属学会	昭和57年10月 日本文化人類学会 昭和60年 4月 日本オセアニア学会 昭和61年 4月 マダガスカル研究談話会 平成 3年 7月 日本南アジア学会 平成19年 4月 日本野蚕学会				
受賞					
担当授業科目	学部 文化人類学演習I・、卒業研究演習・、フィールドワーク実習A-・、フィールドデータ実習A-、フィールドデータ処理法、南アジアの歴史と文化、人類学概論、多文化共生論 大学院 文化人類学基礎研究法演習I、文化人類学研究法演習、地域文化研究 南アジア、フィールドワーク				
論文指導	論文指導担当[主査](卒論:10名、修論:3名) 修士論文審査[主査](修論:1名)				
教育実績 (FD活動)	<p>講義内容の改善への取組</p> <p>文化人類学演習の授業において、感動マーケティングを実施している小堀仏具店(京都市)の見学と社長インタビューを組み込んだ。それにより、学生たちに働くということの意味について改めて機会を与えることができた。</p> <p>教材に関する工夫</p> <p>多文化共生論では、実験的にいろいろな映像資料を活用して具体的な事例から考えさせる工夫をした。</p> <p>教授方法に関する工夫</p> <p>多文化共生論では、パワーポイントの使用を減らし学生との対話と板書を中心とした教授方法を実施。学生が授業に積極的に取り組むようになった。</p> <p>シラバスに記載した教育目標の達成度</p> <p>講義科目については、ほぼ達成できたと考える。フィールドワーク実習関連授業では、フィールドでの調査活動と現地インターンシップにおいて大きな教育成果を上げた。しかし、地域の歴史や文化に関する文献をじっくり読ませる時間がしっかり取れなかったためか、基礎的な知識が十分に身付けられなかったように思われる。</p> <p>今後の改善点</p> <p>演習授業では、現場主義教育を重視しながらも、もう少し文献を読む力をつけさせるような工夫をする必要があると考える。</p> <p>その他</p> <p>学内のFD関連講演会(9月・10月)へ参加。</p>				

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (2/8)

<p>その他の教育実践活動実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市外国人留学生交流等促進事業補助金を得て、地域住民・留学生・本学学生からなる「アジア・アフリカとびっきり映画祭 in 向島」実行委員会を組織し、12月24日に映画祭を実施。 ・全国博物館協議会関西支部助成金を得て、宇治市歴史資料館と連携し、博物館学芸員講座の授業にモバイル・ミュージアム活動を組み込んで「向島ニュータウン秋の祭典」や向島図書館において土屋コレクション教科書資料の展示企画を実施。 ・「東日本大震災復興サポートプロジェクト」、「文教ストリート」のアドバイザーとして、学生課、FRO（フィールドリサーチオフィス課）と協力して学生と地域住民の連携活動をサポートした。
<p>H25 年度研究課題</p>	<p>学部・大学院共通</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シルクをめぐる経済人類学的研究 2. ローカルメディア研究 3. ニュータウン研究
<p>平成二十五(2013)年度の研究活動の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. シルクをめぐる経済人類学的研究 日本とインドの間のシルクおよび化繊の輸出入統計資料の収集と分析を行い、明治から昭和初期の日本のテキスタイル産業の発展におけるインドへの輸出の重要性に関する実証的研究を継続。 横浜市工業技術支援センター所蔵輸出スカーフ資料のうち昭和30年代の資料を中心に台帳および現物資料の調査を実施。それをとおして日本のテキスタイル輸出におけるインド商社とインド商人のグローバル・ネットワークの意義を明らかにした。 日本製輸出用シルクおよび化繊サリーのデザインについて、当時のデザイナーにインタビュー調査。 2. ローカルメディア研究 京都山城地域SNSを運営する宇治大好きネットに理事として参画し、実践的な研究を継続。京都府内のコミュニティFMのラジオ番組製作者にインタビュー調査。 3. ニュータウン研究 向島ニュータウン・センター商店会の住民交流拠点「京都文教マイタウン向島」を中心とした向島ニュータウンの現状に関する実践的な研究活動の継続。 向島駅前まちづくり協議会メンバーとともに向島ニュータウン住民アンケートの実施。 2003年度より本学人間学研究所の共同研究として行われてきたニュータウン研究の集大成として、本学教員および学生の活動と研究をまとめた出版物「ニュータウンの再デザイン ~ 京都南部向島ニュータウンからの発信」(仮題)の編集および本学研究成果刊行助成への申請。 4. その他 1960 - 80年代日本製化繊およびコットン輸出向けプリントテキスタイルの生産および販売の関係者へのインタビュー調査など。
<p>平成二十五(2013)年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「描かれた「宇治」 宇治市源氏物語ミュージアム収蔵資料の地域文化資源としての活用に向けて」, 共著、平成26年3月、共著者：家塚智子、京都文教大学 総合社会学部研究報告第16集 (pp.1-14) 2. 「横浜市工業技術支援センター所蔵スカーフ資料にみるアジア・アフリカ市場向け輸出スカーフの流通ネットワークと現地ファッションの変化」, 単著、平成26年3月、横浜市経済局中小企業振興部工業技術支援センター、地域資源(横浜スカーフ)の活用による産業活性化事業『横浜スカーフ調査報告書』(pp.47-54)

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (3/8)

平成二十五(2013)年度の主な研究成果等	<p>(学会報告、学会活動)</p> <p>1. 「アジア・アフリカ向け日本製プリントテキスタイルの輸出とインド商会」、単独、平成26年2月、現代インド地域研究 国立民族学博物館拠点MINDAS「環流する現代インド文化」(研究代表者: 国立民族学博物館・教授 杉本良男) 2013年度第4回合同研究会、国立民族学博物館</p> <p>2. 「インド調査2013: クンバコーナム」、共同、平成26年2月、共同発表者: 杉本良男、文科省科学研究費助成事業共同研究会、新潟情報大学</p> <p>3. 「インド手織りサリーの黄昏」、単独、平成26年3月、文科省科学研究費助成事業共同研究会「インドにおける都市消費市場の構造と農村・都市間の物的人的循環: 生活文化の視点から」(研究代表者: 名城大学・准教授 杉本大三) 名城大学</p>
	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演)</p> <p>1. 話者「シルクの島マダガスカル 島固有の野蚕と土着化した家蚕」、単独、平成25年6月、みんなくウィークエンド・サロン 研究者と話そう 第301回、国立民族学博物館</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>平成25年 8月-9月 インド農村の社会変化調査(インド・タミルナード州)</p> <p>平成25年 9月 モーリシャスのインド移民における口承伝承調査(モーリシャス)</p> <p>平成25年度(通年) 横浜市工業技術支援センター所蔵輸出スカーフ資料調査</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成20年度-平成25年度 大学共同利用機関法人人間文化研究機構 地域研究推進事業現代インド地域研究 国立民族学博物館拠点 拠点プロジェクト「環流する現代インド文化」(研究代表者: 国立民族学博物館・教授 杉本良男) 研究分担者</p> <p>平成23年度-平成28年度 科学研究費補助金(基盤研究A、課題番号23251010)「インド洋西域島嶼世界における民話・伝承の比較研究」(研究代表者: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 小田淳一) 研究分担者</p> <p>平成25年度 - 平成27年度 科学研究費補助金(基盤研究B、課題番号)インドにおける都市消費市場の構造と農村・都市間の物的人的循環: 生活文化の視点から」(研究代表者: 名城大学。准教授・杉本大三) 研究分担者</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>大学院委員会委員、自己点検・大学院委員会委員、入試委員会委員、博物館学芸員講座委員、大学間連携委員会(現・大学間連携共同教育推進事業委員会)委員、文化コーディネーター養成プログラム委員</p>
平成二十五(2013)年度の社会における活動	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託)</p> <p>平成25年 4月 横浜市経済局中小企業振興部工業技術支援センター「横浜スカーフ研究会」メンバー「平26.3まで」</p>
	<p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般法人「千里文化財団」理事「平24.4より」 ・ 特定非営利活動法人「まちづくりネットうじ」賛助会員「平21.4より」 ・ 特定非営利活動法人「宇治大好きネット」理事「平22.4より」 ・ 公益財団法人京都地域創造基金 事業指定助成プログラム選考委員「平22.4より」 ・ 特定非営利活動法人きょうとNPOセンター・市民活動総合センター運営委員「平23.4より」
	<p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成26年 2月 京都文教短期大学附属小学校 国際教育、「インドの文化」、於:同校</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巨椋池干拓地環境保全ワークショップ委員「平21.4より」 ・ 京都文教マイタウン向島運営委員会委員「平25.1より」

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (4/8)

(著書)

1. 『共同研究 戦後の生活記録にまなぶ 鶴見和子文庫との対話・未来への通信』、共著、平成21年2月、日本図書センター、西川祐子・杉本星子共編、282p
2. 『サリー！サリー！サリー！ インド・ファッションをフィールドワーク』、単著、平成21年10月、風響社、京都文教大学文化人類学ブックレット 2 (76p)
3. 「『日本人のライフ・ヒストリー』 鶴見和子著」、単著、平成22年8月、嵯峨野書院、小林多寿子編著、『ライフストーリー・ガイドブック』(pp.222-225)
4. 「家族・親族・婚姻」、単著、平成22年10月、世界思想社、田中雅一・田辺明生編、『南アジア社会を学ぶ人のために』(pp.34-45)
5. 'Sociocultural Frame, Religious Networks, Miracles: Experiences from Tsunami Disaster Management in South India,' 共著(Seiko Sugimoto, Antonysamy Sagayaraj, and Yoshio Sugimoto), in Karan, P.P.& S.Subbiah (eds.) The Indian Ocean Tsunami, The Global Response to a Natural Disaster, The University Press of Kentucky: 213-235. 平成22年12月
6. 『情報化時代のローカル・コミュニティ ICTを活用した地域ネットワークの構築』、共著(杉本星子編)、平成24年8月、国立民族学博物館調査報告 106 (247p)

(編著書)

7. 「パドマ・サーリヤル タミルナードゥ州 南インドの伝統的な織工カースト」、単著、平成24年8月、明石書店、金基淑編、『エリア・スタディーズ108 カーストから現代インドを知るための30章』(pp.93-100)
8. 「コング・ヴェッラーラ タミルナードゥ州 タミルナードゥ州西部の有力農民カースト」、単著、平成24年8月、明石書店、金基淑編、『エリア・スタディーズ108 カーストから現代インドを知るための30章』(pp.119-127)

(論文)

1. 「プロジェクト オンライン/オフラインの共同体 共同研究：地域SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用した新しい地域コミュニティの構築に関する研究」、単著、平成20年12月、民博通信 123 (pp.18-19)
2. 「なぜ、Cerachia appolina、ダブル繭なのか?」、共著、平成21年8月、日本野蚕学会報No.64、共著者：赤井弘・石川達也・乾こゆる・長島孝行、『野蚕 - 新素材シルクの研究開発』(pp.9-10)
3. 「マダガスカル野蚕・家蚕産業の発展に向けた染織実験」、共著、平成21年8月、日本野蚕学会報 64、共著者：高橋裕博、『野蚕 - 新素材シルクの研究開発』(pp.10-11)
4. 「京都山城地域SNSお茶っ人」、共著、平成21年9月、学芸出版社、共著者：中村俊二、季刊まちづくり24号 (pp.80-83)
5. PROJECT「ICTネットワークングのエスノグラフィに向けて 共同研究：地域SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用した新しい地域コミュニティの構築に関する研究、単著、平成22年9月、民博通信 129
6. 「マダガスカル家蚕シルク織物生産の歴史と現状」、単著、平成24年3月、飯田卓編『マダガスカル地域文化の動態』国立民族学博物館調査報告SER103 (pp.259-274)
7. 「序論：情報化時代のローカル・エスノグラフィー」、単著、平成24年8月、国立民族学博物館調査報告 106 『情報化時代のローカル・コミュニティ ICTを活用した地域ネットワークの構築』(pp.3-11)
8. 「地域SNSの日記コミュニティ 『書くこと・読むこと』が紡ぐローカル・ネットワーク」、単著、平成24年8月、国立民族学博物館調査報告 106 『情報化時代のローカル・コミュニティ ICTを活用した地域ネットワークの構築』(pp.179-203)

(学会報告、学会活動)

1. 「マダガスカル野蚕種と繭・糸の流通の現状」(発表)、単独、平成20年6月、日本野蚕学会第14回大会、東京・サンケンビルジグ
2. 「マダガスカル森林資源と経済 野蚕・野綿の紡績・製織・流通システムをめぐって」(発表)、単独、平成20年6月、国立民族学博物館共同研究「マダガスカルの文化的多様性に関する研究」(研究代表者：文化資源研究センター・准教授 飯田 卓)研究会、国立民族学博物館

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (5/8)

(学会報告、学会活動 つづき)

3. 「地域SNSによる「地域」の再構築」(発表)、単独、平成21年5月、日本文化人類学会第43回研究大会分科会「地域SNSの現場から ローカルネットワークとローカルコミュニティを再考する」(分科会コーディネーター)、大阪国際交流センター
4. 「マダガスカルの野蚕・家蚕産業の発展に向けた染織実験」、共同、平成21年6月、共同発表者：高橋裕博、日本野蚕学会第15回大会、富岡製糸場
5. 「南インドの独立後のサリーファッションの展開と「サウス・シルク」」、単独、平成21年10月4日、日本南アジア学会第22回全国大会テーマ別発表4、北九州市立大学北方キャンパス
6. 「The Expansion of Consumption in Rural Areas of Tamil Nadu and the Development of “South Silk”」、共同、平成21年10月、科学研究費補助金(基盤研究B・一般)「インドにおける消費パターンの変動と経済成長、1950-80年：中下層階層を中心に」(課題番号19330074、研究代表者：千葉大学・人文社会科学部研究科・教授 柳澤悠) 公開シンポジウム、東京外国語大学
7. 「SNSエスノグラフィーのジェンダー空間」、単独、平成22年2月、国立民族学博物館共同研究「地域SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用した新しい地域コミュニティの構築に関する研究」(研究代表者：京都文教大学・人間学部・教授 杉本星子) 研究会、国立民族学博物館
8. “Toward the Extrication from Heartache: A Case Study of the Reconstruction of a “Village Temple” by Tsunami Victims in North Chennai”, 2010 AAG(Association of American Geographers) Annual Meeting, 15-19 April, Washington DC. 平成22年4月19日
9. 総合討論(ディスカッション) The Second International Conference on Culture Wear and Diaspora Museum、平成22年8月、国立民族学博物館
10. “The Ecosystem of the Habitat of Wild Silk Moths and the Traditional Silk Production System of the Central Plateau of Madagascar”, 6th International Conference on Wild Silk moths, International Society for Wild Silk moths, Sept.21-23 (Tokyo University of Agriculture)、平成22年9月
11. 「アルゲマ・ミトゥレイの資源調査と養蚕・製糸・製織技術の開発」、共同、平成23年9月、共同発表者：高橋裕博、第17回日本野蚕学会、京都工業繊維大学
12. “Session 1: Creating Public Sphere”(コメンテーター)、International Symposium “Media and Power in South Asia-with special reference to contemporary circumstances of media and society in India-“, National Museum of Ethnology, 平成23年12月、National Museum of Ethnology, Osaka
13. 「タンジャーヴール県ティルップランピヤム村落調査報告」、平成24年3月、文科省科学研究費補助金基盤研究(B)「独立後インドの消費行動：農村社会経済構造の長期変動との関連に注目して」研究会(研究代表者：東京大学 柳沢悠) 東京大学
14. 「シルクの島マダガスカル 多様な野蚕と土着化した家蚕」、平成24年3月、マダガスカル研究懇談会、国立民族学博物館
15. 報告「横浜シルクスカーフ」、単独、平成24年7月、国立民族学博物館機関研究「布と人間の人類学的研究」研究会、国立民族学博物館
16. 報告“Japanese Handkerchiefs, Scarves and Sarees for the Indian Ocean Markets”, 単独, the International Conference on Textile Trades and Consumption in the Indian Ocean World, Indian Ocean World Centre, McGill University, 2-4 November 2012、11月4日
17. コメントおよびパネルディスカッション “第一部：大規模災害時にローカルメディアが果たす役割 日本からのコメント”、共同、平成24年11月、国際シンポジウム「大規模災害とコミュニティの再生」、国立民族学博物館
18. 報告「Kumudamの広告分析 サリーと耐久消費財の消費をめぐる考察」・「南インド社会の構造変動と消費行動 クンパコーナム近郊農村の事例研究」、単独、平成25年3月、科学研究費補助金(基盤研究B、課題番号22330100)「独立後インドの消費変動：農村社会経済構造の長期変動との関連に注目して」研究会、東京大学

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (6/8)

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

1. 「ハリウッドを誘う『インド洋の貴婦人』 - モーリシャスとインド映画」、単著、平成20年10月、『月刊みんぱく 特集インド映画』(p.4)
2. 「コラム 発信する農家 農業ブログと生活記録」、単著、平成21年2月、日本図書センター、西川優子・杉本星子編、『共同研究 戦後の生活記録にまなぶ 鶴見和子文庫との対話・未来への通信』(pp.226-233)
3. 「多様な野蚕と家蚕の宝庫 知られざるシルクの島マダガスカル」、単著、平成21年8月、染織と生活社、染織情報 (pp.2-3)
4. 「21世紀アジア社会の人類学：回顧と展望 総論」、共同、平成21年12月、南山大学人間学研究所創立60周年記念シンポジウム、南山大学人間学研究所
5. 「虫に学ぶ、虫と生きる：天然資源としての昆虫の可能性を考える」(解説)、共同、平成21年12月、NPO法人アースネットネットワーク主催「生物多様性からみた持続可能な天然資源としての染料・薬用植物と天然繊維 ～種の存続と人間の生産活動の持続可能性を求めて～」サイエンスカフェ2、地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)
6. 「マダガスカル・ワイルドシルク紀行～島固有種の多様性と生態環境」(オープニング講演)、単独、平成22年9月、第四回ワイルドシルク・フェスタ(主催：ワイルドシルク協議会) 東京農業大学
7. 「文化人類学のフィールドワーク教育と大学の地域連携活動」、共著、平成24年3月、企画・監修：京都文教大学人間学部文化人類学科、平成20年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」採択「文化コーディネーター養成プログラム～モノ・ひと・地域を活かす大学ミュージアムを活用した実践的人材育成教育」大学間連携研究会報告書(80p)
8. 「2011年度第1回研究会「心のバリアフリーからはじまる『まちづくり』：愛知県の2つのニュータウンにおける実践報告」、共著、平成24年3月、京都文教大学人間学研究所共同研究プロジェクト「リバイビング・ニュータウン：住民主体のコミュニティ再活性化にむけた研究」、京都文教大学人間学研究所 人間学研究Vol.12 (pp.37-76)
9. 講演(第16回マダガスカル研究懇談会(大会))報告「シルクの島マダガスカル 多様な野蚕と土着化した家蚕」、単著、平成24年11月、マダガスカル研究懇談会会報ニュースレター『SERASERA』(pp.1-4)

(調査活動)

平成20年 8月 - 9月	マダガスカル調査(科学研究費補助金課題番号18520633：後述)
平成20年12月-平成21年 1月	南インド調査(科学研究費補助金課題番号19330074：後述)
平成22年 3月	インド調査(科学研究費補助金課題番号20251011：後述)
平成23年 2月 - 3月	インド(チェンナイ・クンバコーナム)における社会変化調査
平成23年 8月	マダガスカル調査
平成23年 8月 - 9月	南インド調査(科学研究費補助金課題番号22330100：後述)
平成24年 8月	中国東北地方視察(新学術研究領域「ユーラシア地域大国の比較研究」、於：北海道大学スラブ研究センター
平成24年8月・9月	インド・タミルナードゥ州タンジョール県における都市・村落調査(科学研究費補助金課題番号22330100：後述)
平成25年 3月	モーリシャス・マダガスカルにおける口伝承調査(科学研究費補助金課題番号23251010：後述)

(学内資金による共同研究)

平成18年度-平成20年度

京都文教大学人間学研究所共同プロジェクト「ニュータウンのある『まち』：地域における大学の役割に関する実践的研究」(研究代表者：京都文教大学・人間学部・准教授 小林大祐、同教授 杉本星子)兼任研究員

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (7/8)

(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)

平成18年度-平成21年度

国立民族学博物館共同研究「マダガスカルの文化的多様性に関する研究」(研究代表者:国立民族学博物館・文化資源研究センター・准教授 飯田卓) 館外研究員

平成18年度-平成20年度

科学研究費補助金(基盤研究C・一般)「グローバル状況下のマダガスカルにおける複合的シルク生産に関する経済人類学的研究」(課題番号18520633) 研究代表者

平成19年度-平成21年度

科学研究費補助金(基盤研究B・一般)「インドにおける消費パターンの変動と経済成長、1950-80年:中下層階層を中心に」(課題番号19330074, 研究代表者:千葉大学・人文社会科学部・教授 柳澤悠) 研究分担者

平成19年度-平成22年度

国立民族学博物館共同研究「地域SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用した新しい地域コミュニティの構築に関する研究」研究代表者

平成20年度-平成22年度

科学研究費補助金(基盤研究A・海外学術)「大規模災害被災地における環境変化と脆弱性克服に関する研究」(課題番号20251011, 研究代表者:国立民族学博物館・民族社会研究部・准教授 林勲男) 研究分担者

平成20年度-(6年間)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構 地域研究推進事業現代インド地域研究 国立民族学博物館拠点 拠点プロジェクト「環流する現代インド文化」(研究代表者:国立民族学博物館・教授 杉本良男) 研究分担者

平成22年度-平成24年度

国立民族学博物館機関研究「布と人間の人類学的研究」(研究代表者:国立民族学博物館・教授 関本照夫) 共同研究員

平成22年度-平成24年度

科学研究費補助金(基盤研究B)「独立後インドの消費変動:農村社会経済構造の長期変動との関連に注目して」(課題番号22330100, 研究代表者:東京大学・東洋文化研究所・名誉教授 柳澤悠) 研究分担者

平成23年度-(6年間)

科学研究費補助金(基盤研究A、課題番号23251010)「インド洋西域島嶼世界における民話・伝承の比較研究」(研究代表者:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 小田淳一) 研究分担者

(学内活動)

平成19年 4月 FW実習委員会委員「平23.3まで」

就職委員会委員「平21.3まで」

研究員派遣調整委員会委員「平21.3まで」

平成20年 4月 博物館学芸員講座委員「現在に至る」

教育GP「文化コーディネーター養成プログラム~モノ・ひと・地域を活かす大学ミュージアムを活用した実践的人材育成教育」委員長「平23.3まで」

大学院委員会委員「現在に至る」

平成22年 4月 広報委員会委員「平23.3まで」

自己点検・大学院委員会委員「現在に至る」

自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員「平24.3まで」

学生委員会委員「平24.3まで」

平成23年 4月 学生相談室運営委員会委員「平24.3まで」

就業力育成支援委員会委員「平24.3まで」

平成二十一年(2008)~二十四(2012)年度の主な研究成果等

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (8/8)

<p>の 主 な 研 究 成 果 等</p> <p>平成二十 一 ～ 二 十 四 年 度 (2008～2012)</p>	<p>(学内活動 つづき)</p> <p>平成24年 4月 入試実行委員会委員「平25.3まで」 高大連携委員会委員「現在に至る」 大学間連携委員会(現・大学間連携共同教育推進事業委員会)委員「現在に至る」 文化コーディネーター養成プログラム委員「現在に至る」</p>
<p>平成二十 一 ～ 二 十 四 年 度 (2008～2012)</p> <p>年度の 社 会 に お け る 活 動</p>	<p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <p>平成 9年 6月 京都山城地域SNS「宇治大好きネット」役員「平21.3まで」 平成19年 4月 京都山城地域SNS「お茶っ人」運営会役員「平23.3まで」 平成21年 4月 特定非営利活動法人「まちづくりネットうじ」賛助会員「現在に至る」 平成22年 4月 公益財団法人京都地域創造基金 事業指定助成プログラム選考委員「現在に至る」 特定非営利活動法人「宇治大好きネット」理事「現在に至る」 平成23年 4月 特定非営利活動法人きょうとNPOセンター・市民活動総合センター運営委員 「現在に至る」 平成24年 4月 一般法人「千里文化財団」理事「現在に至る」</p> <p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成24年11月 京都文教高等学校2年ALP「世界を駆ける子猫『キティ』を考える」、於：同校</p> <p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成24年 6月 報告「京都文教大学の多文化共生地域連携活動」、多文化施策談話会(京都市国際 交流課) 於：国際交流会館 平成24年 7月 講演「地域力を鍛える！ 京都文教大学の試みから」、平成宇治ライオンズク ラブ例会、於：宇治第一ホテル</p> <p>(その他)</p> <p>平成21年 4月 巨椋池干拓地環境保全ワークショップ委員「現在に至る」 平成22年度 第2回まちづくりシンポジウム「ともに生きる地域(まち)づくり 現場から多 文化社会を考える」企画実施・パネラー(平成22年12月)ほか、教育GP関連地域 連携活動多数 平成25年 1月 京都文教マイタウン向島運営委員会委員「現在に至る」</p>